

【札幌地区ミニバスケットボール春季大会を前に】

U12 カテゴリー 部会長 齊藤 八起

今年度の活動を迎えるにあたりましては、春季大会プログラムにも内容を若干修正のうえ掲載させていただきますが、私からは4月総会時に阿部部会員からの代読とHPへのアップでお伝えしておりますので、ここにお集まりの皆様にはすでに伝わっていることと思います。これからお伝えするのは、各ブロックの前期リーグ戦を通じて気になったことです。

私は、一チームの指導者としてはAブロックに所属しています。Aブロック代表の堀川氏から発信されたことですが、「サイレントゲームが解禁され、声を出しての応援が可能になったことで、熱い思いがあり過ぎて、過剰な応援になってはいないか。」というご指摘がありました。保護者席からのきつい言葉や具体的なプレーの支持、中には保護者席側に選手を呼びつけるような場面もあったようです。他ブロックではいかがでしょうか。保護者の皆様には、会場内や保護者席での、応援者、そして運営協力者としての振舞いに配慮していただけたら、と思います。

ある試合では、こんな場面がありました。フリースロー時の「声」です。対戦相手のフリースロー時に、ベンチの選手が、わざと大きな声を出したのです。今の子どもたちは、YouTubeでもTVでも、そして北海きたえーる等でも、いつでもバスケットボールを目にすることができます。とても恵まれていると思います。このような環境ですから、いいプレーだけでなく、今お伝えしたような好ましくないプレーもすぐに覚えます。そして、そういうプレーをすることが正しい、上手い、当たり前…とってしまうこともあるでしょう。子どもたちがもしも間違ったり、悪いプレーをしたりしたら、正してあげてください。Uカテゴリーとしてふさわしくないプレーや言動をしたら、それはだめだと教えてあげてください。それが、私たち大人の責任だと思います。

最後にベンチワークですが、Aブロックに限らず、このような声が届いております。「自チームの指導者が、試合中に選手を怒ったり怒鳴ったりしてばかりいます。」あるいは、「相手のベンチの声が怖くて、対戦相手の子どもたちまで怖がっていました。」などというご指摘、報告です。残念です。

アンダーカテゴリーの選手に対し、時には、厳しい指導が必要な場面があるかもしれません。ですが、選手のために必要な「厳しさ」と、ただ「こわい」とか、いつも「恐ろしい」とは異なります。今一度ご自身や自チームの指導、ベンチワークを振り返り、選手が委縮してしまうような指導ではなく、のびのびとはつらつとプレーできるような指導、ベンチワークを、心からお願いいたします。

ここでお伝えさせていただいたことは、何もAブロックに限ってではなく、他のブロックでもどのチームでもありうることで、実際に聞こえても来ています。ただ、誤解しないでいただきたいのは、圧倒的に多いのは皆さんの望ましい指導とベンチワークと応援、そして、子どもたちのフェアプレーである、ということです。

各チームの指導者、保護者、そして子どもたちには、ここにお集まりの代表指導者、保護者代表の皆様からお伝えいただき、地区の皆さんで共通意識をもって取り組んでまいりましょう、という強い願いから、今日はあえてお話しさせていただきました。皆様の子どもたちへの熱い思いとマナー、インテグリティの益々の向上によってこの1年が、また、この春季大会が素晴らしいものになるよう期待しています。ありがとうございました。